



堺ブロックと紀泉ブロック堅信式

一人が立ち上がれば 周りの者も元気に



2021年11月14日(日)、堺教会で堺ブロック(堺・泉北・金剛・橋本)の合同堅信式が行われた。小学5年生から90代の人生の大先輩まで、総勢27人の受堅者が、前田万葉大司教司式のもとで堅信の秘跡を授かり「大人の信者の仲間入り」を果たした。コロナ流行のため昨年開催の予定を延期。しかし「これ以上の延期は望ましくない」という認識のもと、緊急事態宣言下に準備会が発足され、ZoomミーティングやYouTubeを使って、春名昌哉神父から指導を受けながら勉強会(全3回)を実施した。



堺ブロック堅信式

堺ブロック主催者の感想▶「堅信式は代父母・保護者のみに参加を制限、聖歌も歌わないスタイルでしたが、堅信の儀では受堅者一人ひとりが前田大司教様にはっきりと応答し、聖霊の賜物を受けたことを宣言していました」。

翌週の21日(日)、王であるキリストの祭日には、泉南教会で紀泉ブロック(泉南・紀の川・岬)の合同堅信式が行われた。受堅者は15人。朗読や共同祈願の一部は受堅者の自国語でなされた。主司式の酒井俊弘補佐司教は「一人の若者が倒れると周りの者も倒れ、一人の若者が立ち上がると周りの者も元気になる」という若い人への大きな期待を寄せた教皇フランシスコのメッセージを紹介した。

紀泉ブロック主催者の感想▶「受堅者の決意表明も力強く『私たちはこれから、自分の周りの人をほうっておかないようにします』という言葉がありました。60数年前の自分の堅信式がなつかしく思い出されました。受堅記念として証明書などの他に、自分の信仰の歩みを記録できるファイル・フォルダーも贈りました」。



紀泉ブロック堅信式

第12回全国カトリックスカウト・キャンポリー

大阪教区支部 合同スカウトミサ



2021年10月10日(日)、豊中教会で全国のカトリックスカウトの集いである「キャンポリー」の閉会式が前田万葉大司教司式で行なわれた。大阪には来れなかった全国のカトリック・ボーイスカウト、ガールスカウトたちはインターネットで参加した。

テーマは「さあ沖へ漕ぎ出そう」。5月30日(日)にネット上で開会式を行ない、これまで時間と場所を越えて「ひとつになる」取り組みが続けられてきた。

閉会ミサでは、スカウトたちがそれぞれリボンに書いた800の祈りを結びつけた「祈りのオール」と「ちかい・やくそくの帆」が奉納され、大司教の祝福を受けた。ミサの説教に代えて、三人の若者が前田大司教にインタビューを行った。

大司教がスカウトたちに贈った句の一つは「スカウトの沖へ漕ぎ出す野分波」。自身の海での体験を思い起こしながら、イエス様が救ってくださることを信じて、人生の荒波に漕ぎ出してほしいと願いをこめた。

次回は2年後の2024年、今回の会場となるはずだった国立淡路青少年交流の家で開催予定。



諸宗教対話委員会 講演会

テーマ

「立正佼成会の歩み」



講師の立正佼成会理事 東靖恵氏

諸宗教対話委員会は、コロナ禍のために活動を一年間休止。2021年11月29日(月)の講演会をもって活動を再開した。

今回は、日本最大の新宗教運動の一つである立正佼成会の歩みについて、当会の教団理事・責任役員・西日本教区長・大阪教会長である東靖恵氏からご講話を頂いた。

約30人の参加者には他のキリスト教諸派の方も含まれ、大阪、奈良、滋賀、東京の各県から4人の末日聖徒イエス・キリスト教会メンバーの参加もあった。

東氏は、立正佼成会の起源と歴史における発展について語られた。また会員が家族や共同体レベルで行っている最も重要な宗教的行事、特に慈善活動や人間の連帯分野について簡潔に説明された。その後、同会の総務部副部長・国際宗教協

力専任部長の和田めぐみ氏のビデオインタビューを交え、若者向けの活動について説明された。

諸宗教対話委員会では、カトリック信者が宗教間対話の重要性を理解し、実際にそれを体験するために、諸宗教寺院への訪問と諸宗教についての講演会をはじめ、種々の活動を行っている。カトリック教会にとって、他の宗教の方々と対話するために不可欠なことは、相手の宗教についても学ぶこと、特に相手から直接学ぶことだからである。

次回は、2022年2月5日(土)開催の第3回諸宗教シンポジウム。「新型コロナウイルスと宗教の智慧」というテーマで、異宗教の三講師によるキリスト教、仏教、神道の観点からの講演を予定している。

(諸宗教対話委員会委員長 ロッコ・ビビアーノ神父)